４つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小手澤の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.596-597
東海大高輪台高のSSH森林実習を実施しました

【定例活動報告】

はや師走、例年よりも葉をつけた木々が多いように感じます。樹々にとっても人にとっても、四季はとても大切だと思いますが、昨今、春と秋が短くなり、“二季”に近づいているような気がします。

今から二十数年前、環境問題にかかわる業務に携わっていました。“緑のダム”を知ったのもそのころです。当時、さまざまな環境問題のなかで、温暖化が一番理解されにくい、と言われていました。変化が遅く切迫感を感じないため、という理由でしたが、酷暑や暖冬、かつて経験したことのない豪雨など、変化は確実に起きていると思います。

現在、森に来ている子どもたちはこれから四半世紀の後、どのような環境で暮らしているのでしょうか。また、彼らが手を入れてくれた森はどうなっ

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

ているのでしょうか。未来を見とおす術をもたない自分にはわかりませんが、環境の変化に関心を失わず、とりあえず目の前にある、自分ができることを続けるしかないと思い、今日も森に入ります。

粟田　浩史（本会理事）

【定例活動報告】知足の森

今回の森ではたくさんのヒノキを切りました。サイズは直径30センチほどの細めの木でこの木は井の頭動物園のリス園に送り、リスが皮を剥ぐ用に使います。初めて行ってみて、足場がとても不安定だなと感じました。斜面になっていたり根っこが生えていたり危険な場面もありましたがなんとか無事に行えて良かったと思います。木を切るとき、なかなか切れなくて苦戦しましたが力の加え方などを考えてみるとすこし切りやすくなったと思います。切るときにロープを使うこと、切る向きをちゃんと考えなくてはいけないなど初めて知ったことがとても多く今後に活かしていけるといいなと思いました。木が倒れそうになってもなかなか倒れなかったり一本の木を切るのに時間がすごくかかることを自分の身で感じることが出来ました。切った木を運ぶのも初めてでしたが、思った以上に重いのと長いので、2人で運ぶときは息を合わせて運ばないといけなくて大変でした。運ぶときは下り坂なので何度も転げ落ちそうになりましたが、最後まで怪我なく終えることができて良かったです。　　鵜川　史瑛（GTE LAB 中学２年女子）

今回初めて森に行って木を切る体験をしました。普段は木を切る機会なんてめったにないので、とても貴重な体験ができてとても楽しかったです。最初はあんな高くて太い木を倒すことができるのかなと不安でしたが、先輩がこういう風にやるんだよと優しく教えてくれて助かりました。更には私が切るところをずらしてしまったりしてしまったのですが、ほかの人たちが補助してくれたりしたので、思った通りの方向に気を倒していてすごいなと思いました。私はまだ全然わからなくて、ほかの人たちの足手まといになってしまったかもしれませんが、それでも優しくしてくれて、さすがだなと思いました。木は太くて、切るのにとても苦労しましたが、先生やほかの人が木を固定してくれたり、切りやすいように工夫してくれたりしてくれて、少しでも切るのが楽になりました。山を何度も上り下りするときに何度もこけてしまったのですが責めたりせずに手伝ってくれてうれしかったです。そして切り終わった後の大量の丸太を見て、すごいなと思いました。初めてだったので不安でいっぱいでしたが、終わった時の達成感はとてもすごかったです。これからも積極的に森に行きたいなと思いました。

西堀　愛衣
（GTE LAB 中学１年女子）

【活動報告】SSH参加者の感想

私は初めて森林伐採をしてみてすごく難しいなと思いました。聞いてみるのと実際にやってみるのでは全然感じ方が違っていて改めてすごいと思いました。山は思ったよりスムーズに進むことができないうえ急な斜面が多かったです。登っても足を滑らすことが多く思ったより疲れました。山には多くの魅力がありとても興味を持つことができました。木を切るのも一発でのこぎりで切れるのではなく2回切れ目を入れ５人ぐらいでロープで引いたらやっと切れました。思ったより疲れる仕事でしだがすごくいい経験になったと思います。

今回初めて森林に行きました。森林は自分が思っていた何倍も険しかったです。山をあまく見ていました。「ここを登の？？」と思うほどの急な斜面

を登りました。アキレス腱が伸びすぎてちぎれるかと思いました。林業で木を切っている方は、こんなにも険しい斜面で作業をしているのかと思うと本当に大変だなと感じました。私たちは普段、机や紙など木からできているものを当たり前のように使っていますが、そこまでたどり着くのにこんなにも大変で危険な作業をしている林業者さんたちがいるのだなと思いました。とても感謝しなければならない存在だなとも思いました。林業者さんたちはなぜその仕事をしようと思ったのか理由が気になりました。また会う機会があれば聞いてみたいです。

桜井尚武の森のコラム

「シモバシラ(*Keiskea japonica*)」

図1　シモバシラ_

20170923　石老山相模湖

図2　シモバシラ

20140923　昭和公園西立川

図3　霜柱

20221225　昭和記念公園西立川

図4　シモバシラ

20221225　昭和記念公園西立川

図5　シモバシラ

20221225　昭和記念公園西立川

シソ科の多年草で固有種、草丈は40cm～70㎝位に育ちます。茎はやや硬く多くのシソ科植物同様方形で4稜があります。葉は対生し薄い洋紙質、先端は鋭く狭まり葉柄は短く浅い鋸歯があります。比較的明るい林床にしばしば密生します（図1）。9月～10月に葉腋から扁側（へんそく）生（一方に偏って並ぶ）の花穂を出して白色の花を開きます（図2）。分布は関東地方以西の本州、四国、九州の山地帯で比較的普通にみられます。この形態をめでて観賞植物とされますが一般的でないようです。育てるのは難しくないといいます。

霜柱はこれからの季節、気温が零度以下になる頃、壌土や砂壌土、道端や畑、その畔などで踏みつけのきつくない所に小さな氷の柱が沢山できる現象をいいます（図３）。地表面は零度以下になって水分が凍り始めても、地中はまだ暖かく水分が毛管現象で地表に上り続け、地表で次々に凍る結果このような柱ができるのです。

あたり一面に霜柱ができる12月から1月の頃、地上部が枯れたシモバシラの枯茎の割れ目裂け目の周りに氷の結晶が発達するのが見られます（図4、5）。この結晶が見事なのでこれを作る植物をシモバシラと名付けたのでしょう。この氷の結晶も根茎を通って上昇する水分が地表面に現れて枯茎の割れ目から染み出て次々と凍る結果作り出されるものです。枯茎がしっかりしているうちは水分が高いとこまで登って行って結晶を作りますが（図5）、昼に向かって温度が上がるに連れ融けて茎がバラバラになり高く上がらなくなるので地際でもきれいな形を作れなくなり、やがてシモバシラの造形は見られなくなります。12月1月の寒い朝の造形ですので観察に挑戦してみて下さい。

このような現象は、実はシモバシラだけでなく他のシソ科植物やキク科のカシワバハグマにも観察されるという報告がありました。

桜井　尚武（本会、会員）

【活動報告】おばらまるしぇに出展しました

今回、小原の郷で行われているおばらまるしぇに初めて出展しました。何回か活性化会議の分科会に出させていただき、準備を進めてきました。今回は土曜日開催ということで、普段日曜の活動に参加しづらい生徒が中心に準備を進めました。参加した生徒の感想をご紹介します。

私はまな板よりもカレンダーのほうが売れると思っていましたが、意外とまな板の方が売れてびっくりしました。その理由としては年齢層が高かったことと主婦の人が多かったことが挙げられると思います。なので次にこのイベントで出し物をするときはまな板を多く作ってこようと思いました。また、まな板は作って欲しいという人が多かったので今度からはあらかじめ作っていたものを用意したいなと思いました。子供がほとんど来なかったため、子供が楽しめるように積み木を持って行ったりして子供にもきてもらえるようにしたいと思いました。今回のイベントでたくさんのことを学ぶことができたのでこれからの活動に活かしていきたいと思いました。

佐野　暖花
（GTE LAB 中学１年女子）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
パタゴニア
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　patagonia